



第6回いきもの調査 身近にいる鳥調査概要



☆いきもの調査の目的

市環境課では、平成23年度より市民主体のいきもの調査を始めています。目的としては、市内のいきもの調査を行うことによって、市民の皆様身近な自然に関心を深めていただき、生物多様性などの環境問題に対する意識啓発をはかることを目的としております。

☆身近にいる鳥調査

〔調査員〕 32人・団体 〔報告〕 203件

〔調査期間〕平成24年12月23日から平成25年2月28日

〔調査対象〕



スズメ

キジバト

ドバト

ハシブトガラス

ハシボソガラス

ミヤマガラス

考察

スズメは群れで行動していることが多いことがわかり、キジバトやハシボソガラスは1羽や2羽で行動していることが多く、100羽以上の大きな群れはあまり見られませんでした。キジバトの報告数はかなり少なく、市内の生息数は少ないのかもしれませんが。

また、調査票の気づいたことの中に、「ほとんどがミヤマガラスで、数羽のハシボソガラスが混じる。」や反対に「大部分がハシボソガラスでミヤマガラスが3羽程混じっている。」という報告があり、種類の違うカラスが混じっていることがあることがわかりました。

☆調査員の感想

笠縫東幼稚園の周辺には葉山川があり、小学校や幼稚園の木々も多く、たくさんの鳥を見かけることができました。幼稚園の子供たちもよく見つけてくれました。

遠目で見ていると同じ種類のカラスばかりが集団にいると思っていたが、種類のちがったカラスと一緒にいることがあることを知って、とても不思議でした。

身近に見ている鳥ですが、改めてよく観察してみると、見えていない事が判って面白かった。例えばカラスで3種類の動作や鳴き声に違いが見えたり、キジバトとドバトで動きや集団の様子が違って見えたり、スズメは人懐っこいと思っていたが、警戒心が強いことが判ったなど、楽しく調査しました。

スズメなど身近すぎて、毎日見ている感じで、あまり関心を持って調査できませんでした。身近な鳥たちが見られなくなることは、大きな環境変化が起きていることで、この様な調査も大事なこともかもしれません。

通勤経路にある家の屋根にいつもスズメがいましたので、毎朝の楽しみで観察していました。また休日に散歩に出かけたときには、鳥の鳴き声に敏感になり、よく探すようになりとても楽しかったと思っています。

家の周りは田んぼが減ってきており、見られる鳥の数も減っている。